

科目名 都市経済学  
Title Urban Economics  
科目区分 地域政策基礎科目

担当教員  
准教授 米本 清 (ヨネモト キヨシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
2

単位区分  
選択

単位数  
2

開講時期  
前期

## 目的

グローバル化・少子高齢化の中、都市の経済は大きな転機を迎えている。都市の経済構造を理解し、これと能動的に関わって行くことは、今日において自立した生活のために必要不可欠である。本授業では、都市経済学の基礎理論を学習し、都市経済の動向を捉えるための基本的な知識を得る。この中で、都市の形成過程、都市モデル、都市規模と都市システムに関する理論をミクロ・マクロ理論の応用として学習する。さらに、地域・環境・国際経済学といった周辺の各経済分野との関連性を知り、具体的事例を挙げて応用力を養う。

## 達成目標

- ・アロンゾ型モデルを含む都市経済学の基礎理論を学習する。
- ・少子高齢化や都市交通問題といった現代都市の諸問題を経済学視点から考察する。
- ・都市経済学における地代・地価の位置づけについて学ぶ。
- ・北関東地域を中心とした身近な都市の問題を都市経済学の視点から考える。

## スケジュール

- 第1回 導入 / 都市と都市化の概念 導入・都市とは何か
- 第2回 都市集積の理論 都市がなぜ形成されるか
- 第3回 都市規模と都市システム 都市間の相互作用
- 第4回 住宅の立地 家計の立地・均衡における地代の特徴
- 第5回 住宅の立地 地代の経済学的な意味
- 第6回 都市の空間構造 オフィスの立地
- 第7回 産業の立地 工業の立地
- 第8回 商業の立地と今後
- 第9回 地価と土地政策 土地問題と対策
- 第10回 住宅市場の理論と政策(1) 住宅問題と対策
- 第11回 住宅市場の理論と政策(2) 今後の住宅政策
- 第12回 都市の交通 交通サービスの需給と交通政策
- 第13回 都市内交通の今後
- 第14回 都市の環境問題 環境問題と対策
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

教科書 黒田達朗・田淵隆俊・中村良平『都市と地域の経済学(新版)』有斐閣ブックス

参考書 佐々木公明・文世一『都市経済学の基礎』有斐閣アルマ

## 授業外での学習

毎回、教科書の該当する章を予習するとともに、「練習問題」に目を通し、自ら考えてから出席すること。

## 評価方法

定期試験(50%)、授業中の小テスト(30%)、小レポート(20%)により総合的に評価する。

## 履修上の注意

経済学の基本的な講義を履修済みであることが望ましい。  
授業には積極的に参加し、レポートでは自らの頭で考えたアイデアを示すこと。  
小テスト・小レポートは、周囲の人と協力して解答したり、ネット上などの資料を収集し分析する作業を含む場合がある。

科目名 ランドスケープ論  
Title Landscape  
科目区分 地域政策基礎科目

担当教員  
名誉教授 津川 康雄 (ツガワ ヤスオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	前期

## 目的

人間は自然環境に順応・適応し、改變するなどして長い歴史の中で社会生活を営んでいる。こうした地理的空間における生活の場が成立する中で、様々な景観が形成されてきた。景観は自然景観そのものである場合や、自然景観に人文景観が融合する中で成立する場合もある。人間が様々な空間行動を基本として生きる限り、景観との関係は密接なものとなり、記憶や原風景となつて個人の空間イメージを形作るのに欠かせず、人間の感情にも大きく作用し、感性を育む。人間の視覚は多くの行動情報を獲得するのに欠かすことができないランドスケープやランドマークを各種の事例から明らかにしたい。

## 達成目標

ミクロからマクロに至る景観構成要素としてのランドマークを、「象徴性」「記号性」「場所性」「視認性・認知性」に分類し、地域アイデンティティを生み出す際の意味(ミーニング)を的確に把握できるようにしたい。

## スケジュール

- 第1回 景観とは何か 原風景、空間認知、デザイン論、風景論
- 第2回 空間・景観・場所・風景 イメージ論、ランドシャフト、ランドスケープ、メンタルマップ
- 第3回 ランドマークとは何か(1) リンチ(K.Lynch)、ストラクチャー、アイデンティティ、ミーニング
- 第4回 ランドマークとは何か(2) シンボル、サイン、アイストップ、アメニティ
- 第5回 都市景観とランドマーク パス、エッジ、ディストリクト、ノード、ランドマーク、パースペクティブ効果
- 第6回 都市の形成とランドマーク 空間的座標点、空間的位置とランドマーク
- 第7回 城下町におけるランドマーク 城郭、土地利用の変遷
- 第8回 都市のイメージとその要素 自然景観・人文景観
- 第9回 都市のイメージ形成とランドサイン 神戸(錨山、市章山、堂徳山)、「夢」サイン、ハリウッド・サイン
- 第10回 宗教的ランドマークとしての大観音像 大観音像、高崎白衣大観音
- 第11回 地域イメージと自然的ランドマーク 自然的ランドマークの要件、ランドマーク・マウンテン
- 第12回 地理的特異点とランドマーク(地理的特異点の事例)(日本標準子午線とランドマーク グリニッジ、明石)
- 第13回 テクノランドマークの成立過程 エッフェル塔、内藤多仲
- 第14回 都市のアメニティとランドマーク 花時計の伝播
- 第15回 総まとめ: 地域づくりとランドマーク、都市プランとランドマーク、地域アイデンティティ

## 教科書・参考文献

教科書 津川康雄著(2018)『ランドマーク -地域アイデンティティの表象-』古今書院

参考書 津川康雄著(2003)『地域とランドマーク』古今書院

## 授業外での学習

国内外の諸地域に出かけ、さまざまな景観にふれる機会を見つけ、当該地域や種々のランドマークのミーニング(意味)やアイデンティティについて考えることを心がけて欲しい。授業後はノートや配布資料、インターネット等を活用し学習内容の定着をはかること。

## 評価方法

作業状況(30%) 課題(20%) 定期試験(50%)  
上記の基準を踏まえ、総合的に評価を行う。

## 履修上の注意

簡単な作業を行うため、色鉛筆やマーカーなどを用意してもらうこともある。

科目名 都市地理学  
Title Urban Geography  
科目区分 地域政策基礎科目

担当教員  
教授 佐藤 英人 ( サトウ ヒデト )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

## 目的

都市は人間の営む社会・経済的な活動の場として、その重要性を高めている。高度経済成長を経て、わが国の都市人口比率が急速に拡大した観点からみても、都市の担う役割は決して小さくはない。我々にとって、重要な舞台装置たる都市を分析し、理解することは、我々が営む様々な活動を持続させる上で必要不可欠な作業であろう。そこで本講義では、都市とは具体的にどのようなものなのか、都市とはどのように形成されるのかなど、都市地理学を学ぶ上で基礎的かつ本質的な理論を中心に解説する。

## 達成目標

都市の定義や形成過程などの都市地理学のディシプリンを理解するとともに、身近な都市問題に対して、自らの意見や考えを持ち、その解決策を立案できることが、本講義の目標である。また、都市地理学を地域政策の現場で役立てられる応用力の養成も目標としたい。

## スケジュール

回数	内容	講義概要、スケジュール、評価方法など
第1回	ガイダンス	研究視角や分析方法、学史等の紹介
第2回	都市地理学を研究する意義とは？	都市の成り立ちと発達史
第3回	都市の成立とその起源	都市・都市圏の設定方法と国際比較
第4回	都市・都市圏の定義	バージェスの同心円モデルと付け値地代曲線
第5回	都市内部の構造	中枢管理機能と中心業務地区 ( C.B.D. )
第6回	業務機能の立地特性と都心	居住機能の立地と通勤
第7回	郊外住宅地の成立	発達段階仮説 ( 都市化、郊外化、逆都市化、再都市化 )
第8回	都市の成長メカニズム	都市の規模や順位、分布パターンの規則性
第9回	都市の階層性 ( 1 )	クリスタラーの中心地理論
第10回	都市の階層性 ( 2 )	人口流、物流、資金、情報の流動
第11回	都市システムと都市間結合 ( 1 )	世界都市の成立
第12回	都市システムと都市間結合 ( 2 )	少子高齢化に伴う人口減少の都市
第13回	現代都市が抱える諸問題 ( 1 )	人口置換がすすむ住宅地と空き家化の抑止
第14回	現代都市が抱える諸問題 ( 2 )	本講義のまとめ
第15回	まとめ	

## 教科書・参考文献

教科書 特に定めないが、毎回授業の冒頭 ( 5~10分程度 ) に参考となる文献やフリーウェア、サイト等を紹介する。

参考書 富田和暁・藤井正編著『新版図説大都市圏』古今書院、2010  
藤井正・神谷浩夫編著『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房、2013

## 授業外での学習

レジュメを事前配布しているので、授業前に一読しておくのが望ましい。また、自主的にさまざまな地域を訪れて地域を見る目を養ってほしい。

## 評価方法

期末試験 ( 70% ) と小レポートの提出状況 ( 30% ) 等により評価する。

## 履修上の注意

本講義ではパワーポイントを使用する。当日使用する資料は、ウェブサイトからダウンロードできるので、適宜利用して欲しい。なお、ダウンロードの方法などの詳細は、初回のガイダンスで説明する。

科目名 都市計画学  
Title Urban Planning  
科目区分 地域政策基礎科目

担当教員  
非常勤講師 坂村 圭 ( サカムラ ケイ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

## 目的

都市は人びとの暮らしを支える基盤であり、そのあり方は生活の快適性、利便性、安全性に大きく影響する。それゆえ、よりよい都市環境を実現するための手段として、思想、技術、法制度等の総体である都市計画が必要とされる。現在の日本では、かつての市街地拡大を前提とした都市計画から、市街地の縮退を踏まえた持続可能な都市計画が求められつつある。本講義では、国内外における都市計画の歴史の変遷とともに、現在の都市計画の実態と課題、さらには都市計画に関する各種法制度の枠組み等を紹介しながら、都市計画の基本的な考え方や役割・意義について論じる。

## 達成目標

国内外における都市計画の歴史的経緯や都市計画の実態を学ぶことで、都市計画の役割・意義を理解すると同時に、これからの都市計画のあり方を考える上での基礎的な知識を習得する。さらには、講義を通して都市や地域コミュニティへの関心を醸成することを目標とする。

## スケジュール

- 第1回 インタロ・都市計画とは？
- 第2回 都市計画の歴史(1) 近代以降の都市計画・海外
- 第3回 都市計画の歴史(2) 近代以降の都市計画・日本
- 第4回 これからの都市を考える視点
- 第5回 都市の構成と土地利用計画
- 第6回 建築物のコントロール
- 第7回 地区スケールの計画・ルール
- 第8回 都市の再生と交通システム
- 第9回 都市と自然
- 第10回 市街地開発事業と都市再生
- 第11回 都市と防災
- 第12回 都市の景観まちづくり①
- 第13回 都市の景観まちづくり②
- 第14回 参加・協働のまちづくり
- 第15回 都市計画の展望

## 教科書・参考文献

教科書 饗庭伸等(2018)「初めて学ぶ都市計画第二版」市ヶ谷出版社

参考書 都市計画教育研究会(2001)「都市計画教科書」彰国社

## 授業外での学習

授業後に配布資料やノートを読み返して復習すること。できるだけ講義中に紹介した参考書に目を通すこと。

## 評価方法

レポート及び受講状況で評価する。  
中間レポート35%、最終レポート35%、毎回のコメントシート(平常点)30%

## 履修上の注意

特になし。

科目名 農業・農村政策論  
Title Agricultural and Rural Policies  
科目区分 地域政策基礎科目

准教授 宮田 剛志 (ミヤタ ツヨシ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
2

単位区分  
選択

単位数  
2

開講時期  
後期

## 目的

日本の食料・農業・農村問題に関して特に次の3点の理解を深めることを本講義の目的とします。第1に、農産物の貿易量の増加が食料価格の安定化と食料安全保障をもたらすのか、否か?といった点。第2に、戦後の日本農業を支え続けてきた中心世代である「昭和1桁世代」のリタイアに伴う農業構造の後退的変動が著しく進捗していること。第3に、21世紀の日本の食料・農業・農村政策の全体像とその推進力の転換-「農林水産業・地域の活力創造プラン」-に関する理解、の3点です。その上で、今後の日本の食料・農業・農村のあり方についてどのように考えられるのか(処方箋等)、学生の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

## 達成目標

「農業・農村政策」の講義を通じて、日本の食料・農業・農村がおかれている現状についての“見る目”をやしなってもらいながら、学生自身が社会の様々な問題に対してより多くの興味・関心を持ってもらえればと考えています。その上で、社会の複雑な問題に対して、学生自らが問題を発見し、その問題に対して自ら解決策を導けるような思考のツールとなる様々な技法や技能を身につけてもらえることを期待しております。

## スケジュール

- 第1回 農業・農村政策論-ガイダンス的内容-
- 第2回 世界共通の貿易ルール-GATTからWTOへ-
- 第3回 二国間・地域間の貿易ルール-FTA/EPAとTPP-
- 第4回 メガFTA時代の日本の食と農
- 第5回 食料の内外価格差と食料自給率の低下
- 第6回 日本農業・農村の変貌.1-『2015年農林業センサス』が示す農業構造の変化-
- 第7回 日本農業・農村の変貌.2-「農地利用の後退」と耕作放棄地の動向、農業の絶対的縮小の加速?-
- 第8回 日本農業・農村の変貌.3-土地利用型農業展開の基礎条件:農地取引における市場-
- 第9回 中山間地域農業の構造と動態.1-「ヒト」→「トチ」→「ムラ」の空洞化-
- 第10回 中山間地域農業の構造と動態.2-中山間地域政策の展開と現状-
- 第11回 21世紀の日本の農業と農業政策.1-食料・農業・農村基本法の成立-
- 第12回 21世紀の日本の農業と農業政策.2-全体像と農政転換の構図-
- 第13回 21世紀の日本の農業と農業政策.3-農政転換の推進力と「農林水産業・地域の活力創造プラン」-
- 第14回 日本の食料・農業・農村の担い手像-農地政策の変遷と農村社会-
- 第15回 農業・農村政策論のまとめ-健全な形でいかに地域資源を次世代に継承していくのか-

## 教科書・参考文献

教科書 生源寺真一『農業再建』岩波書店、2008年、他。

参考書 小田切徳美編『農山村再生に挑む 理論から実践まで』岩波書店、2013年。作山巧『食と農の貿易ルール入門』昭和堂、2019年他。

## 授業外での学習

関連した論文や図書に関して事前に理解を深めておくこと。

## 評価方法

定期試験を65%、講義の区切りで課す小テスト・レポート等を35%として評価。出席率が大学の規定に達しない者は評価の対象としない。

## 履修上の注意

目的意識をしっかりと持って受講することが第一です。

科目名 アメリカ社会と歴史  
Title American Society and History  
科目区分 地域政策基礎科目

名譽教授 大河原 眞美 ( オオカワラ マミ )

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	前期

## 目的

本講義ではコロンバスのアメリカ大陸発見から現在までの500年間を通して、人種、民族、宗教におけるアメリカ社会の多様性について考える。民主主義が成立し、物質的豊かさを謳歌してきたアメリカであるが、先住民は、コロンバスの到来時から20世紀初めには十分の一まで激減した。また、人種と階級が組み合わさった奴隷制、奴隷制廃止後の人種差別の存続といった暗い部分もある。一方、ヨーロッパで誕生したキリスト教の一派(アーミッシュ)がヨーロッパでは改宗等により消滅したが、アメリカでは隆盛を極めていく。アメリカの多様性を包含しているのは、1ドル紙幣にある標語のE PLURIBUS UNUM (多くのものからなる一つ)とIN GOD WE TRUSTに表されるアメリカの市民宗教である国家的な見えざる宗教である。白人と黒人の混血であるオバマ前大統領から白人の労働者階級の価値観を代弁するトランプ大統領へと揺れ動いているアメリカを歴史的観点から考察する

## 達成目標

アメリカの社会や歴史について、基本的な用語を正確に理解し説明できる。その中でも重要用語については、英語でも理解できるようになる。また、年表、地図その他の資料の活用を通して、アメリカの歴史を、自分の力で分析できるスキルを習得する。アメリカを歴史的に検証することによって、歴史的視野から考察する能力を身につけ、日本を取り巻く地域の理解を深める能力が高まる。

## スケジュール

- 第1回 はじめに
- 第2回 先住民の世界 (イロコイ連邦など)
- 第3回 植民地時代から建国へ、13植民地の建設と発展 (ピューリタン、アーミッシュなど)
- 第4回 アメリカ独立革命 (独立宣言など)
- 第5回 新共和国の建設 (憲法制定など)
- 第6回 市場革命と領土の拡大 (ジャクソン大統領など)
- 第7回 黒人奴隷制度 (南部社会の階級構造、奴隷制廃止運動など)
- 第8回 南北戦争と「再建の時代」 (奴隷解放など)
- 第9回 金びか時代から革新主義へ (北米大陸征服など)
- 第10回 第一次世界大戦と黄金の1920年代 (アメリカ外交など)
- 第11回 ニューディールと第二次世界大戦 (大恐慌など)
- 第12回 第二次世界大戦後から1970年代までの内政と社会 (公民権運動、信教の自由裁判など)
- 第13回 冷戦とアメリカ外交 (朝鮮戦争、ベトナム戦争など)
- 第14回 1980年代から21世紀へ (大統領選挙など)
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

教科書 和田光弘編著(2014)『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房

参考書 野村達郎 (1998) 『アメリカ合衆国の歴史』ミネルヴァ書房  
大河原眞美 (1998) 『裁判からみたアメリカ社会』明石書店

## 授業外での学習

アメリカ史の英語の映像 (Biography of America) を毎回5分程度見ます。各回の映像範囲の台本(英語)を前回に渡すので、知らない単語を調べて来てください。また、アメリカ関連の新聞やニュースなどからも積極的に情報収集してください。授業後は復習して、学習内容の定着を図ってください。

## 評価方法

テスト2回：40%、レポート：30%、毎回のコメントシート：30%

## 履修上の注意

一つの国の歴史の成り立ちは、他の国や他の地域との関係との所産である。このような広い視点からアメリカの歴史を見ること。そして、そのアメリカと関連の深い日本についても、アメリカの視点から改めて日本を見る、といった国際的な視点からものごとを見るように努めること。

科目名 開発経済学  
Title Development Economics  
科目区分 地域政策基礎科目

担当教員 担当教員との連絡方法  
非常勤講師 李 佳 (リ カ)

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	前期

## 目的

1990年から2013年までの間、1日あたり1.9ドル以下で生活する人々の数が世界的に19億から7.7億まで大きく減少した。その背景として、いわゆる新興国や発展途上国がグローバル経済に占める地位の変化を察することができ、本講義は、開発経済学の基礎的枠組みを概観するものであり、発展途上国の開発問題をめぐる議論がどのように展開してきたかを解説する。国際協力や途上国支援の視点も取り入れるが、主として途上国が自立的な努力でいかにして農業中心の伝統的な社会から工業化、都市化を成し遂げることができるか、その経済発展のメカニズムを理論と実証の両面から考察する。

## 達成目標

- 本講義を通して、受講者は
- 途上国の現状そして直面する経済・社会問題を理解できるようになること。
  - 経済発展のメカニズムやその源泉となる諸要因を理解できるようになること。
  - 開発経済学の基礎的枠組みや手法を把握できるようになること。

## スケジュール

- 第1回 授業ガイダンス、経済学と開発研究 (Economic developmentとは)
- 第2回 開発水準の測定および国際比較
- 第3回 経済開発の主な理論 (古典的アプローチ: 段階モデル、構造変化や従属理論)
- 第4回 経済開発の主な理論のつづき (経済成長論)
- 第5回 人口の増加、貧困と経済開発
- 第6回 労働移動、工業化と都市化
- 第7回 工業化戦略と近代経済成長の国際的波及
- 第8回 貿易、海外直接投資と経済開発
- 第9回 貿易、海外直接投資と経済開発のつづき
- 第10回 資本の国際移動とマクロ経済の安定化
- 第11回 金融システムの改革と経済開発
- 第12回 貧困削減と国際開発援助
- 第13回 技術革新とその源泉
- 第14回 環境と持続可能な開発
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 戸堂康之 『開発経済学入門』 新世社 2015年; 黒岩郁雄・高橋和志・山形辰史 『テキストブック 開発経済学』 第3版 有斐閣 2015年

## 授業外での学習

途上国に関するニュースに関心をもつこと。

## 評価方法

- 課題: 40%
- 期末試験: 60%

## 履修上の注意

講義中に解説される基礎理論に関する疑問や不明点があったら、積極的に質問すること。

科目名 国際交流史  
Title History of International Politics  
科目区分 地域政策基礎科目

担当教員 担当教員との連絡方法  
教授 吉武 信彦 (ヨシタケ ノブヒコ)

E-Mail

配当年次 2 単位区分 単位数 開講時期  
2 選択 2 後期

## 目的

現代の国際関係は極めて流動的であり、混沌としている。国家間の政治的、経済的利害は錯綜し、経済摩擦が熾烈になる一方、宗教、民族対立をきっかけに実際にテロリズム、戦争なども起こっている。そのため、そうした国際関係を安定化させる一手段として、国際交流が注目されている。文化を異にする人々の間の相互理解が進まなければ、紛争を未然に防止することは不可能である。こうした問題意識に立ち、本講義では国際交流の現状、将来を考える前提として、これまでの国際交流の歴史を概説する。特に、国際交流の定義、意義、限界をまとめた後、日本・ヨーロッパ関係を事例にして国際交流の歴史を具体的に紹介する。また、国際交流は背景にある国際関係から常に大きな影響を受けてきた。そのため、国際関係の大きな流れにも最低限言及する。

## 達成目標

講義の到達目標としては、①国際交流の定義、意義、限界などを理解し、国際関係におけるその役割について自分自身の意見をもてるようになること、②日本・ヨーロッパ関係史の大きな流れを押さえた上で、実際にいかなる国際交流が展開されてきたかを歴史的に考えることをめざす。レポートも、分析力、表現力を磨く手段として、前向きに取り組んでほしい。

## スケジュール

- 第1回 講義概要の説明 (講義目的、目標、スケジュール、成績評価等を説明する)
- 第2回 国際交流研究の入門 (参考文献を紹介する)
- 第3回 国際交流とは何か (国際交流の定義について考える)
- 第4回 国際交流の意義と限界 (国際交流の意義と限界について考える)
- 第5回 日欧関係の前史 (交流が始まる以前の背景について考える)
- 第6回 日欧関係の始まり (1) (日欧が初めて出会った16世紀について考える)
- 第7回 日欧関係の始まり (2) (日欧が初めて出会った16世紀について考える)
- 第8回 鎖国に至る日欧関係 (江戸時代初期の関係について考える)
- 第9回 鎖国下の日欧関係 (1) (江戸時代の関係について考える)
- 第10回 鎖国下の日欧関係 (2) (江戸時代の関係について考える)
- 第11回 幕末の日欧関係 (交流が拡大した幕末の関係について考える)
- 第12回 帝国主義時代の日欧関係 (1) 明治時代前半 (明治時代前半の関係について考える)
- 第13回 帝国主義時代の日欧関係 (2) 明治時代後半～1945年 (明治時代後半から第二次世界大戦終結までの関係について考える)
- 第14回 第二次世界大戦後の日欧関係 (第二次世界大戦後の関係について考える)
- 第15回 まとめ (講義全体を振り返り、国際交流の可能性、限界について考える)

## 教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 第2回目の講義で、詳細な参考文献表を配布する。

## 授業外での学習

配布する参考文献表の本を1冊でも多く読むことが望ましい。  
中間レポートの課題書をしっかり読み込み、内容について理解したうえで、レポートを作成してほしい。期末レポートでも多くの本を読んでもらう予定。

## 評価方法

全面的な対面講義とはならないと予測されるため、レポート中心で成績評価をすることになる。中間レポート1回(30%)と期末レポート(70%)で総合的に評価する。中間レポートでは課題書を読んでもらう予定。

## 履修上の注意

講義計画は、講義の進み具合により若干変更することもありうる。  
現代欧州の歴史と構造も履修することが望ましい(ヨーロッパについて理解を深めるため)。  
全面的な対面講義とはならないと予測されるため、出席はとらない。



科目名 産業政策論  
Title Industrial Policies  
科目区分 地域政策基礎科目

担当教員  
教授 山本 匡毅 ( ヤマモト マサキ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2 単位区分 選択 単位数 2 開講時期 後期

## 目的

産業はグローバルに活動している。例えば自動車産業は部品を国内のみならずタイなどの海外からも調達し、福岡県、愛知県、宮城県などで組み立て、国内外に販売してきた。地場産業の岩手県の鋳物もフランスで販売されるようになってきている。産業政策は国や自治体という空間の枠組みから産業の動きを切り取った日本産業や地域産業を踏まえ、国や自治体に立地する企業や産業を軸に振興を図るものである。本講義では具体的な産業振興の取り組みを取り上げながら、グローバル展開する産業の動きの中で国や自治体を実施する産業政策の仕組みや制度について検討し、産業振興の方向性や今後の課題について考えていく。

## 達成目標

グローバルな産業活動に基づいて、国や自治体の産業振興に関する政策の枠組み、位置づけ、役割を理解するとともに、個別産業の動向を踏まえ、国や地域ごとの産業特性や産業振興について意見や考えを持ち、その戦略を立案できるようになることが、本講義の目標である。さらに地域政策の一領域としての産業政策を実践する応用力の涵養も目標とする。

## スケジュール

第1回	イントロダクション	産業、産業政策とは何か？
第2回	産業と技術	産業を形作る技術
第3回	産業と地域	産業空間と地域の関係
第4回	産業構造政策と産業組織政策	国の産業政策と経済発展
第5回	産業立地政策の展開	国の産業政策と自治体の接点
第6回	グローバルな産業空間と地域産業政策	グローバル産業と自治体の関係
第7回	自治体と地域産業政策	地域産業政策における都道府県と市町村
第8回	素材産業の振興	鉄鋼業の構造と活性化
第9回	機械産業の振興 ( 1 )	自動車産業の構造と活性化
第10回	機械産業の振興 ( 2 )	半導体産業の構造と活性化
第11回	先端産業の振興 ( 1 )	航空機産業の構造と活性化
第12回	先端産業の振興 ( 2 )	医療機器産業の構造と活性化
第13回	大都市圏における地域産業政策	川崎市の「川崎モデル」による産業振興
第14回	地方圏における地域産業政策	山形県の商談会と企業誘致による産業振興
第15回	講義のまとめ	産業政策の今後を考える

## 教科書・参考文献

教科書 特に定めない。授業内で毎回の授業テーマに即した参考文献を紹介する。

参考書 尾高煌之助・松島茂編著 ( 2013 ) 『幻の産業政策 機振法』日本経済新聞出版社  
藤原直樹 ( 2018 ) 『グローバル化時代の地方自治体産業政策』追手門学院大学出版会

## 授業外での学習

【予習】授業テーマについてインターネット、書籍などで調べる。さらに毎回の授業ごとに関心のある国や自治体の産業政策を1つ調べておく。

【復習】授業のノートや資料を読み、分からないことを調べたり、質問する。可能であれば、参考文献を読む。

## 評価方法

受講状況・リアクションペーパー ( 30% ) : 出欠はICカードで取る。毎回の授業内容について授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらい提出していただく。( 両方があつて出席とみなす。 )

期末試験 ( 70% ) : 論述を含む試験を行う。

## 履修上の注意

私語、遅刻、不要不急の出入りは厳禁とする。単位取得には3分の2以上の出席を要する。  
質問はリアクションペーパーに書くことができる。可能な限り、次の授業でフィードバックする。  
期末試験のフィードバックは、試験終了後に行う。

科目名 財政学  
Title Public Finance  
科目区分 地域政策基礎科目

担当教員  
教授 中村 匡克 ( ナカムラ タダカツ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

## 目的

国は、租税や公債といった形で資金を調達し、市場を通じた供給が難しい財・サービスを提供したり、社会保障などに関する仕事をしています。財政とは、これらの活動に関する政府の意思決定あるいはそれに伴う資金の流転を指します。しかし、巨額の借金を抱えていることからわかるように、現在のわが国の財政はさまざまな問題を抱えています。そこで本講義では、わが国の財政が抱える問題を明らかにし、それらの問題が発生する原因と目指すべき行財政改革について議論していきます。なお、政策と財政とは表裏一体の関係にあることから、本講義は政策研究に欠かせない内容を多く含んでいます。

## 達成目標

政治家や官僚、利益集団、有権者の行動が政策決定に与える影響を考慮しつつ、テレビや新聞で取り上げられる国と地方の財政、経済政策などに関する報道を理解したり、それらについて自分なりの考えをもてるようになることです。また今後、自分自身の興味・関心のある政策について考える際には、財政のこともきちんと議論に取り入れられるようになることを期待します。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション：講義の概要とスケジュール、評価方法
- 第2回 市場と財政の機能
- 第3回 公共財と公的供給
- 第4回 ディスカッション ( 1 ) : テーマ1
- 第5回 ディスカッション ( 2 ) : テーマ1のつづき
- 第6回 ディスカッション ( 3 ) : テーマ2
- 第7回 ディスカッション ( 4 ) : テーマ2のつづき
- 第8回 少子高齢化と社会保障制度改革
- 第9回 景気と財政政策
- 第10回 財政の現状と課題
- 第11回 財政肥大化の要因
- 第12回 私的選択と公共選択
- 第13回 租税原則
- 第14回 国と地方の財政関係
- 第15回 新しい公共経営

## 教科書・参考文献

- 教科書 上村敏之 (2015) 『コンパクト財政学 第2版』新世社  
※教科書は講義を理解する上で必要不可欠です。確実に購入して学習してください。
- 参考書 川野辺裕幸・中村まづる (2013) 『テキストブック公共選択』勁草書房  
ヒルマン、アリエ・L (2006) 『入門財政・公共政策』勁草書房

## 授業外での学習

講義は、学生同士のディスカッションに重点をおきながら進めます。それに求められる基礎知識の習得には、指定の教科書ならびに関連科目の自主学習が必要不可欠です。

## 評価方法

- レポート (30%) 定期試験 (70%)
- ※学則で定める一定の出席がなければ評価を受けられませんので、注意してください (出席点はありません)。

## 履修上の注意

経済学とミクロ経済学、マクロ経済学を履修済みあるいは履修中であることが望ましいです。また、本講義と地方財政論は連続して履修することをお勧めします。

科目名 公共政策論  
Title Public Policy  
科目区分 地域政策基礎科目

担当教員  
教授 佐藤 公俊 (サトウ キミトシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	前期

## 目的

公共政策は政治家や行政が独占的に担う領域ではない。公共政策は市民が自らのために実現する公共的問題の解決策である。したがってわれわれは、公共的問題の解決のために政府を利用するということを議論の根本に据えることが必要となる。この講義は受講者が市民として公共政策に対する積極的な関心を持ち、公共政策に関する基礎知識を習得し、公共政策を分析する上で必要とされる概念を理解し、そのことにより政策分析能力を向上させることを目的とする。講義内容は「公共政策の基礎概念」、「公共政策と政府の役割」、「公共政策の構造」、「公共政策の選択と決定」、「政策過程と政策評価」から成る。これらについて制度的・理論的説明を行い、さらに具体的な事例の紹介と解説を行い、その上で受講者自身がこれらの知識を用いて実際に公共政策を分析する。以上の作業を通じて公共政策に対する理解を深めて行きたい。

## 達成目標

①公共政策に関する最重要のステーク・ホルダー（利害関係者）は「市民」であること、公共政策は行政や政治家の独占物ではないこと、を理解する。さらにわれわれ一人一人が市民として公共政策に対する関心を持ち、知識を得ることが必須の教養であるということを理解する。②その上で、公共財、政策体系、政策手段、政策類型などについての知識を習得し、それらを自在に使いこなすことができるようになる。以上の①と②を目指す。

## スケジュール

第1回 「イントロダクション」 講義の概要、評価の方法、文献の紹介  
第2回 「公共政策論の射程」 公共の利益、政策目的、目的と手段、「アート、エンジニアリング、サイエンス」  
第3回 「政策手段」 権力的手段、インセンティブ、物理的禁止、情報提供、直接的なサービス提供  
第4回 「政策体系 - 目的と手段の構造 -」 目的と手段、政策・施策・事業、総合計画、政府体系  
第5回 「政策体系による政策分析」 目的と手段、フレーミング、ディスコース  
第6回 「公共財①」 政府の役割、「夜警国家」と「福祉国家」、「非排除性」と「非競合性」  
第7回 「公共財②」 コモンプール財、クラブ財、教育と大学を考える  
第8回 「中間試験」 第1回から7回までの内容についての試験  
第9回 「外部性を考える」 生の外部性と府の外部性、公害、教育、ピグー税  
第10回 「金融政策」 インフレとデフレ、金融政策の目標と手段、世代間対立  
第11回 「金融政策と為替」 金融緩和と引き締め、購買力平価、輸出と輸入、バブル  
第12回 「財政政策」 乗数効果、金融政策と財政政策、乗数効果の低下  
第13回 「規制緩和」 社会的規制と経済的規制、構造とは何か、構造改革  
第14回 「所得財分配」 自由と平等、累進課税、社会のデザイン  
第15回 「まとめ」 政策的合理性の追求、利害対立、政治の重要さ

## 教科書・参考文献

教科書 指定しない。

参考書 講義中に指示する。

## 授業外での学習

次回の授業範囲に関連する項目について情報収集し、予習をすること。授業後はノートや配布資料に目を通し、学習内容の定着を図ること。

## 評価方法

中間試験 (30%)、期末試験 (70%) による。それに加えて、講義中に書くリアクションペーパーを重視する (+α)。

## 履修上の注意

特になし。

科目名 政策科学  
Title Policy Science  
科目区分 地域政策基礎科目

担当教員  
教授 佐藤 徹 ( サトウ トオル )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	前期

## 目的

「政策科学」が出現してから多くの年月を経た今日、公共政策の決定に必要とされる知識を体系化し、現実社会が直面する諸問題の解決を志向する政策科学に対しては、広くその重要性が認識され期待が高まってきた。本講では、政策科学をこれから学んで行く上で必要となる基礎的知識と、それを実際の政策分析へ適用するための実践的方法について概説する。まず政策科学とは何か、どのようなパラダイムと体系を目指しているかについて、その生成と発展の経緯をたどりながら考えてみる。その上で、これまでに公共政策の決定に適用されたシステム化の実践について解説するとともに、政策分析へ適用される代表的手法を取り上げ、地域問題への適用事例を紹介しつつ、その効果的な活用のあるあり方を検討していく。近年、英米をはじめとして、国や自治体でも推進されているEBPM (エビデンスに基づく政策形成) についても検討する。

## 達成目標

学生が、政策科学とはどのようなものが、地域政策との関連をふまえて理解し、その基本的な考え方と体系を、各自の関心ある分野に適用できるようにする。

## スケジュール

- 第1回 「政策科学」を学ぶ人へ イントロダクション
- 第2回 「政策科学」とは何か 政策科学の全体像
- 第3回 政策科学の生成と発展 誕生とその背景
- 第4回 P P B S とシステムズ・アナリシス
- 第5回 P P B S の適用結果とその後の展開
- 第6回 費用便益分析・費用効果分析 ①手法の基本原則
- 第7回 費用便益分析・費用効果分析 ②適用事例研究
- 第8回 費用便益分析・費用効果分析 ③適用上の限界と課題
- 第9回 プログラム評価 ①手法の基本原則
- 第10回 プログラム評価 ②適用事例研究
- 第11回 プログラム評価 ③適用上の限界と課題
- 第12回 EBPM (エビデンスに基づく政策形成) ①
- 第13回 EBPM (エビデンスに基づく政策形成) ②
- 第14回 EBPM (エビデンスに基づく政策形成) ③
- 第15回 全体総括

## 教科書・参考文献

教科書 『エビデンスに基づく自治体政策入門』(佐藤徹編、公職研、2021年)。その他、必要に応じて講義のなかで指示する。

参考書 『政策科学入門』 宮川公男著 東洋経済新報社 2002年  
『政策科学の基礎』 宮川公男著 東洋経済新報社 1994年

## 授業外での学習

次回の授業範囲について、配布資料を研究室のホームページからダウンロードし、ひと通り目を通しておくこと。授業後は、関連文献などを適宜参照し、学習内容の定着を図ること。

## 評価方法

定期試験(100%)。ただし、授業における積極的な発言は別途加点する。

## 履修上の注意

- ・受講意志のある者は第1回目の講義(イントロダクション)に必ず出席すること。
- ・講義で使用する資料は原則として佐藤徹研究室ホームページに掲載する。各自ダウンロード・印刷して講義にのぞむこと。なおデータを聞くためには講義中に知らせるパスワードが必要である。

科目名 現代政治論  
Title Contemporary Politics  
科目区分 地域政策基礎科目

担当教員  
教授 増田 正 ( マスダ タダシ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

### 目的

・旧共産圏・東側世界の自壊と体制移行の後、自由、秘密、普通、平等選挙を基本要件とする「自由民主主義体制」が、事実上、民主主義のグローバル・スタンダードとなったとされた。しかし、ここ最近、ロシア、トルコなどの権威主義体制の再活性化やポピュリズムの蔓延など、現行の「自由民主主義体制」の存続は決して自明ではないような状況が世界的に頻発している。  
・本講義では、先進国の選挙制度、政党制、最近の選挙結果を概観し、そこで選挙がどのように機能し、政党が組織され、どのように国民が統治されているのが、選挙の有効性を巡って、比較政治学的に考察していきたい。

### 達成目標

・自国の政治を相対化し、客観視できるようになるためには、諸外国の政治に触れておくことが必要である。したがって、最初に選挙制度と政党制に関する理論枠組みを学習した後、先進各国における最新の政治状況を概観した上で、比較政治学的な視点から日本の政治について理解できるようにしたい。

### スケジュール

第1回 ガイダンス 講義のアウトライン及び履修上の注意  
第2回 デュヴェルジエの法則と政党社会学 小選挙区制、比例代表制、小選挙区2回投票制  
第3回 サルトーリの現代政党学 一党制、二大政党制、穏健な多党制、分極的多党制  
第4回 ゲーム理論と最小勝利連合仮説 ノイマンのゲーム理論とドッドの最小勝利連合仮説  
第5回 選挙制度と社会の関係 同質社会、異質社会、アラバマのパラドックス  
第6回 各国の政権形態 イギリス ウェストミンスター型の安定政権は失われたか  
第7回 各国の政権形態 ドイツ 穏健な多党制の終焉 二大政党の凋落とポピュリズム政党の台頭  
第8回 各国の政権形態 フランス 半大統領制の共和国とマクロン政権の始動  
第9回 各国の政権形態 イタリア 二院制と政党の分極化がもたらす不安定  
第10回 各国の政権形態 オーストラリア 普通選挙の先駆者 優先順位付連記投票制  
第11回 日本の選挙制度の変遷 制限選挙、男子普通選挙、普通選挙、18歳選挙権  
第12回 選挙制度の類型と理念 小選挙区制論者のバジヨットと比例代表制論者のミル  
第13回 日本の政治を考える(1) マニフェスト選挙と政権枠組  
第14回 日本の政治を考える(2) 定数は正と一票の格差問題  
第15回 総括授業(講義のまとめ)

### 教科書・参考文献

教科書 増田正・丹羽文生ほか『政治学入門』一藝社(2020)

参考書 池谷知明、河崎健、加藤秀治郎編著『新西欧比較政治』一藝社(2015)

### 授業外での学習

シラバスに対応した講義項目に関する事前学習(予習)を行うとともに、講義後にテキストで内容を復習しておくことが望まれる。

### 評価方法

学期末試験:70%、毎回のコメントシート:30%

### 履修上の注意

テキストを必ず毎回持参すること。

科目名 地方自治論  
Title Local Autonomy  
科目区分 地域政策基礎科目

担当教員  
教授 岩崎 忠 (イワサキ タダシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
2	選択	2	前期

## 目的

自治体は、地域社会の課題に対して、独自の政策を立案し、決定し、実施するといった一連の政策過程を行っている。一方で、国が福祉、環境、都市づくり等さまざまな政策を実現しようとする場合、その多くは自治体の活動を通じて実現される。さらに、市民やNPOが国の政策に異議を唱えたり、新しい政策を提案したりする場合、その声はまず自治体に届けられ、政策形成や政策変更につながる場合がある。このように自治体は、各種のアクターの行動に支えられ、その影響を受けながら、独自の判断、プロセスによって展開される。本講義では、住民の意思を代表し、政策を実現する自治体の活動を中心に、地方自治の制度、組織、市民との関係を考察する。また、神奈川県職員（総務部、企画部、県土整備部）としての勤務実績及び政策立案・決定・執行・評価の実務経験をいかして、具体的な政策課題への対応や一連の政策過程の視点を中心に講義する。

## 達成目標

講義にあたっては、できるだけ具体的な事例やデータを取りあげ、自治体の現場に視点を置きながら考察するので、実務に生かせる地方自治論を習得することを目標にする。具体的には、基本的な仕組みを正確に理解すること。そして、地方自治をめぐる諸現象を多面的に捉える視点を養うことである。

## スケジュール

- 第1回 イントロダクション（講義の目的と構成、評価方法等）
- 第2回 自治体とは何か。なぜ地方自治なのか。住民と自治体。
- 第3回 地方自治制度の歴史
- 第4回 都道府県と市区町村、市町村合併
- 第5回 大都市制度（都区制度、政令指定都市制度、中核市制度）
- 第6回 授業の振り返り（2～5回）と質疑応答
- 第7回 自治体の統治機構（二元代表制、執行機関多元主義）
- 第8回 自治体の議会と議員（自治体議会の改革）
- 第9回 自治体の政策と総合計画
- 第10回 自治体の危機管理（防災政策と感染症対策）
- 第11回 授業の振り返り（7～10回）と質疑応答
- 第12回 自治体の組織管理
- 第13回 自治体の財政運営と財政改革
- 第14回 住民参加、直接請求、住民投票
- 第15回 授業の振り返り（12～14回）全体のまとめと質疑応答

## 教科書・参考文献

教科書 磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治(新版)』北樹出版、2020年

参考書 授業で紹介します。

## 授業外での学習

次の授業範囲に関連する項目について、指定した教科書・参考書をよく読み、予習しておくほか、新聞やニュースなどからも積極的に情報収集すること。また、授業終了後は必ずノートや配付資料に目を通し、学習内容の定着を図ること。

## 評価方法

成績は、レポート（11回）：55%、毎回のコメントペーパー：45%により評価する。  
なお、コメントペーパーについては、授業に貢献する質問や意見に対して、高い評価をする。

## 履修上の注意

毎回授業時にコメントペーパーを配布し、授業で理解できなかったことや疑問点などを書いて提出してもらい、振り返り授業で回答する授業形式でのぞみたい。公務員志望の学生にはお薦めである。楽しく学びましょう。

科目名 民法総則  
Title Civil Law  
科目区分 地域政策基礎科目

担当教員  
教授 金光 寛之 (カネミツ ヒロユキ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

## 目的

民法は、日常生活に最も関係の深い市民生活の法であると言える。例えば、本を買う、アパートを借りる、会社で働くという身近な行為は、民法における「売買」、「賃貸借」、「雇用」という法律関係にあたり、トラブルが生じたときは、民法領域の問題として解決される。したがって、民法の知識を身につけるといことは、社会生活を行う上で必要不可欠なことになる。この講義では、民法第1編「総則」を学習対象とし、民法全体に通ずる基本原理としての具体的な内容について解説を行っていく。講義の際は、一般的・抽象的な解説にならないようできるだけ身近な暮らしの中に生きている民法の仕組みについての解説を心がけ、また、具体的な判例も挙げながら、今後学ぶ法律科目にも留意する。

## 達成目標

2年次以降に履修できる物権法、債権法、環境法をはじめその他の法律科目の前提となる知識を習得することを到達目標とする。

## スケジュール

第1回	イントロダクション	講義概要、スケジュール、評価方法等
第2回	民法概論	民法とはどのような法律なのか。民法と他の法律との関係。
第3回	民法の基本原則	民法の基本原則とは何か。民法の四原則。
第4回	権利の主体の概説	権利能力、死亡の次期、失踪宣告
第5回	制限能力者制度	未成年者、成年被後見人、被保佐人、被補助人
第6回	法人	法人とは、法人の種類、法人の活動、法人の責任能力
第7回	権利の客体	物の概念-有体物、不動産と動産、その他の区別
第8回	法律行為	法律行為とは、法律行為の有効要件、
第9回	意思表示	心理留保、虚偽表示、錯誤、詐欺、脅迫
第10回	代理制度	その1 代理行為、代理の効果、無権代理
第11回	代理制度	その2 表見代理、表見代理と無権代理との関係
第12回	時効	その1 取得時効、長期の占有継続、所有の意思
第13回	時効	その2 消滅時効、消滅時効の起算点、除斥期間
第14回	まとめ	今までの講義の復習
第15回	まとめ	

## 教科書・参考文献

教科書 石川 信『民法講義ノート「民法序説・民法総則」』（生協にて販売）

参考書 講義にて適宜指示する。

## 授業外での学習

予習・復習として指定されたテキスト等の教材をよく読むこと。

## 評価方法

中間試験50%・期末試験50%  
※講義への受講状況を加味することもある。

## 履修上の注意

私語は慎むように。

科目名 行政法総論  
Title Administrative Law  
科目区分 地域政策基礎科目

担当教員  
教授 新田 浩司 ( ニッタ ヒロシ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

## 目的

国や公共団体による行政活動は、住宅、ゴミ、生活環境、治安維持、交通などの地域の問題を始め経済政策、防衛、外交など多岐にわたる。このような行政活動は行政法に基づき行わなければならない。現代社会における問題を考える上で行政法の知識は不可欠である。行政法は、行政権の主体たる国および公共団体の組織、権限、機関相互の関係など、行政組織法と、国・公共団体と国民との間の公法上の法律関係に関する行政手続法、行政作用法および行政救済法がその研究対象である。行政法はこれらの法規を研究対象とする学問である。地方分権、公務員制度改革など、行政法を取り巻く環境は大変革の時期を迎えているが、本講義では、個々の行政法規を解釈する上で必要な、公行政を支配する一般的な法原理及び体系別諸問題について学ぶ。併せて、民間の研究所での勤務経験に基づき、実態と研究の両面から、行政法について解説する。

## 達成目標

行政活動を行う根拠規定である行政法の基本原則、組織、作用、救済等の概要を把握した上で、国民、地域住民と行政とが深く関わっていることを理解し、行政に関する様々な問題について自分なりに法的に分析できるようになることが、受講生の到達目標である。

## スケジュール

- 第1回 行政法について-ガイダンス-
- 第2回 行政法の基本原則①-行政とは何か、行政法とは何か-
- 第3回 行政法の基本原則②-法律による行政の原理-
- 第4回 行政組織法①-国の行政組織-
- 第5回 行政組織法②-地方公共団体の組織-
- 第6回 行政組織法③-公務員法-
- 第7回 行政組織法④-公物法-
- 第8回 行政手続法①
- 第9回 行政手続法②
- 第10回 行政作用法①-法的分類、行政立法、行政計画
- 第11回 行政作用法②-行政行為(その1)
- 第12回 行政作用法③-行政行為(その2)
- 第13回 行政契約
- 第14回 行政作用の実効性の確保の手段
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

教科書 金井洋行・新田浩司著『プロローグ行政法(改訂版)』八千代出版

参考書 講義中に適宜指示する

## 授業外での学習

予め教科書を熟読し、予習しておくこと。

## 評価方法

学期末試験：80%、小テスト：20%

## 履修上の注意

講義の理解を深めるために、適宜新聞記事等を具体的な事例を参照する。各自においても新聞記事等に留意すること。なお、授業中の飲食、私語、携帯電話、メール等は厳禁します。



科目名 現代の法思想  
Title Contemporary Constitutional Thoughts  
科目区分 地域政策基礎科目

担当教員  
非常勤講師 齋藤 洋 ( サイトウ ヒロシ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

## 目的

私たちの社会は私たちの発想で構築されている。つまり、天然自然以外の人間生活に関する法制度等はすべて人間が作った人工物であり、そのため容易に崩壊もし、想像もし得る。現代の人間社会は、良し悪しは別として法制度によって構築されているが、それも人工物であることから、その根本あるいは土台には「何らかの思想」が必ず存在する。  
この講義は法思想を扱うため、問に対する正解はない。ゆえに本講義の目的は、上記の人工物の全てを疑ってみること、そこにどのような思想があるかを考えること、このような「自分で考える」習慣を身に着けることを目的とする。

## 達成目標

- 1 常に疑う、あるいは疑問をもって物事に当たるようになること。
- 2 自分で考えるための調査等をできるようになること。
- 3 自分の考えを文章で明確に表現できるようになること。

## スケジュール

- 第1回 本講義の説明及び「法及び法的思考とはどのようなものか」
- 第2回 近世の法思想・法哲学
- 第3回 近代自然法の特徴と機能
- 第4回 定義理論と「万民の万民に対する闘争」(ホブズ)
- 第5回 自然権と抵抗権(ロック)
- 第6回 生命・自由・幸福追求の権利(ジェファースン)
- 第7回 カントの考えたこと(抄)及び「一般意思と民主主義という難問」(ルソー)
- 第8回 家族・市民社会・国家(ヘーゲル)①
- 第9回 ヘーゲル②
- 第10回 最大幸福の原理(ベンサム)
- 第11回 現代的問題と法思想(例えば何故に領土問題は解決できないのか)
- 第12回 歴史法学と概念法学(サヴィニーとフフタ)
- 第13回 国家と法の階級性(マルクス)
- 第14回 価値相対主義(ラートブルフ)
- 第15回 イデオロギー批判と民主主義(ケルゼン)

## 教科書・参考文献

教科書 深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』(第2版)(ミネルヴァ書房)

参考書 必要な場合に指示する。

## 授業外での学習

「疑う」習慣をつけること

## 評価方法

上記目標達成度を測定するため、テーマに関するレポートを提出する。その内容に基づいて評価する。(100%)

## 履修上の注意

この講義は、教科書に準拠することを予定しながらも、必要に応じて様々な分野あるいはテーマに飛躍するので、授業に出席していないと理解が困難になることが多く、スケジュール通り進まない場合もあるので、注意すること。